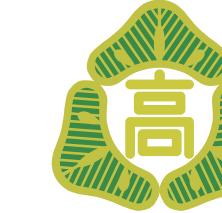




CONTENTS

- 会長・校長あいさつ
- 卒業生に聞く
- 甲子園出場時の寄付の御礼
- 同窓会報告
- 平成24年度支援金のご報告
- 松高NOW
- 生徒会報告・進路結果報告
- 寄付金の御礼名簿
- お知らせ・編集後記



発行

松阪高校同窓会(南窓会)

事務局 〒515-8577三重県松阪市垣鼻町1664 TEL・FAX:0598-67-4178 mail:nansokai@mctv.ne.jp

松阪高校卒業生としての誇り — 福政 恵子

甲子園初出場おめでとうございました。母校の校歌を甲子園で聞けるとは格別に嬉しいことでした。高校在学中に熱血野球少年であった同級生に「必ず甲子園にいく」をいつも聞かされ私もいつか甲子園にいってほしいと強く願っていましたが、その夢が叶いました。甲子園出場は在校生だけではなく卒業生全員の夢だったと思います。野球部の皆様、そして野球部を支えたたくさんの方々、夢を叶えていただきました。

高校の時に記憶をさかのぼります。私は三年間を一号棟(運動場側)の教室で過ごしました。窓際が私にとっての特等席で、こっそり席を替わつてもらつたりしながら、太陽の光にきらきらと輝くポプラの並木を眺めているのが好きでした。クラブが終わると太陽堂に集まり名物のねぎ胡椒たっぷりのラーメンを食べたりしながら、いつまでも戻ることなくおしゃべりを楽しんだものでした。

当時松阪高校はいつも自由で闊達な気風に溢れていたと思います。特に全校集会の講堂で生活指導の先生と先輩が、何かにつけて論争をしている風景は素晴らしいながら、太陽の光に照らされた甲子園の木々がとても美しいです。その当時は血氣盛んな若さゆえの意味の無い自信がほとばしり、さらに熱血漢の恩師に果敢に論争を吹っ掛けようなどでは懐かしい風景がたくさんありました。そんな松阪高校の気風の中で、どうぞ育った私も、一筋縄ではないかないやんちゃな学生だったと思いますが、たくさんの素晴らしい恩師に恵まれました。今でこそそんな生徒はいないでしようが、その当時は血氣盛んな若さゆえの意味の無い自信がほとばしり、さらに熱血漢の恩師に果敢に論争を吹っ掛けようなどでは懐かしい風景がたくさんありました。そんな松阪高校の気風の中で、どうぞ育った私も、一筋縄ではないかないやんちゃな学生だったと思いますが、たくさんの素晴らしい恩師に恵まれました。特に大切に育み、見捨てず応援していただいた担任の井坂先生、万部先生には、心より感謝いたします。その時、かけていただきたい温かい想いの経験が今の私の原動力になっていくと思います。社会に出てから、「コンピューター会社での立ち上げを経験したのち、松阪で子供たちを教えることで起業し、現在は教育事業部、フード事業部、美容事業部、ライフスタイル事業部を擁する会社を運営しています。松阪に本社を構え松阪、東京、大阪等首都圏を中心展開していますが、いずれは松阪にて人材育成をし、松阪に優秀な若者が活躍できる所をもっと作りたいと思います。松阪高校出身の同級生が松阪にて起業したり、家業や会社を継いだりしながら発展していく姿を見たり聞いたりするのは大きな喜びです。

先日松阪高校関西同窓会のお誘いをいただきました。いつもどこかで同窓生が学年を超えて場所を超えて集まっている繋がりの強さは松阪高校ならではだと思います。甲子園初出場に際しての松阪高校OBの方々のご尽力を見るにつけ、遠くから、近くからの母校への想いは皆変わらないと感じました。若き松阪高校の学生

諸君に『君熱くあれ 希望に燃えよ』と全国どこにいてもきっと卒業生はエールを送っているはずです。私は松阪高校に進学し本当に良かつたと思うと同時に、卒業生であることを誇りに思います。



PROFILE
福政 恵子
松高31回生(S54卒)
株式会社アクアプランネット 代表取締役社長

「夢を持つことは恥ずかしいことではない、夢を持ちそれを追い求め実現させることはいかに人生を有意義にするか夢は実現しないと考えてしまいがちな現代、夢を実現させる努力(コツ探し)に価値があることを忘れずこの七年間、私自身、選手たちは頑張り続けました。努力して迷つて、自分たちで考えてまた努力して、その繰り返しで松阪高校野球部は成長していったと思います。

この七年間『同調と集中』をテーマに日々過ごしてきました。
同調することにより、すべてのエネルギーが上がり、高いエネルギーで集中を研ぎ澄ますことにより潜在能力が發揮される。あとは集中の方向を一方向に定めることによって奇跡的な結果が生まれてくる。選手たちは七年間このことを積み上げてきました。
しかし、最後は南窓会会員の方々を中心に、たくさんの方々の『松高がんばれ!』が同調しきなエネルギーで押し上げていただきました。

今回の結果は、本当に『夢をみんなで掴んだ』ものでした。
選手たちに大会が終わる頃、「部訓である『ありがとう』の本当の意味が分かる。」といふ話をしていました。言葉に出来ず表現できず、心の中から自然に湧いてくる感謝が「ありがとうございます」というでした。

松高野球部は本当の『ありがとう』を大切にし、これからも進化・成長を遂げていきたいと思っております。

最後に努力することを止めてしまふと迷いも苦しみもなくなると思いますが、『連覇』という大きな「夢」に向かって更なる努力をしていきたいと思います。
松高野球部は本当に『ありがとう』を大切にし、これからも進化・成長を遂げていきたいと思っております。



PROFILE
松葉 健司
松高38回生(S61卒)
三重県立松阪高等学校 教諭

昨年は多大な応援、ご支援のおかげで甲子園出場という大変素晴らしい経験をさせていただきました。野球部一同感謝しております。



魅せた、松高、全力プレー 松阪高校、初の甲子園出場！

魅せた、松高、全力プレー 松阪高校、初の甲子園出場！

松高31回生(S54卒)三重県立松阪高等学校 教諭 大辻 隆弘



このたびは同窓会の皆様から多大な寄付金をいただきました。

今回の甲子園出場に関するすべての費用は、みなさんから寄せ付けていただき、余剰金は、今後の甲子園出場のための基金として積み立てたほか、グランドの整備・記念碑・学校の教育充実のための諸機材(体力測定器など)に使わせていただきました。本当にありがとうございました。

甲子園初出場への支援ありがとうございました。

野球部副部長 下釜 浩

県大会決勝での感動の優勝の瞬間から、周囲のボルテージも一気に上がり、まさに夢のよ

うな気持ちのまま八月四日に選手とともに現地入りを果たしました。八月十五日の試合本番までの長い日程の中で、体調管理には大変気を遣いましたが、選手たちは「自重自律」を体現するように、時には規律正しく整然と目的に対し集中し、時にはリラックスし笑顔を絶やさず充実した生活ができたと思います。その間にもOB・同窓会の方々からも暖かいお声や差し入れなどをいただき、そのおかげで万全の状態で試合に臨むことができました。宿泊したホテルには浦和学院の選手も宿泊しており、体格の違い(筋骨隆々)や生活の管理の在り方(厳しい規律)などがあざぶん対照的に感じました。

現地の滞在期間中には、様々な場所で練習を行いました。甲子園の近隣の公営球場や高校のグラウンド、時には卒業生の力を借りて、同志社大学や関西学院大学のグラウンドを借りることでできました。大学の球場は設備も充実し、広々としたすばらしい球場で、思い切り、打ち走り、投げることができたことは非常に良い機会となりました。

甲子園での試合後、学校に凱旋した時、多くの皆さんに出迎えていただき、本校野球部としての誇りと様々な支援に対して心から感謝の気持ちが湧き上りました。「ありがとうございます。」を部訓とし頑張ってきたことが、本当に形になったと感じた瞬間でした。

皆さんからのご支援をいただき、本当にありがとうございました。



第三回 関西同窓会開く

坂川 弘幸

平成二十四年四月二十二日 第四〇回を迎える木の花同窓会総会を開催いたしました。

去る一月三日、第三回松阪高校関西同窓会(吉川正一会長)昭和二十二年卒業が大阪市内で開かれた。昨年夏の全国高校野球選手権大会に母校が初出場を果たして後、初めての開催となりて、甲子園での試合途中で校歌が流れたシーンのテレビ録画を見ながら校歌を合唱するなど、大きな盛り上がりを見せた。

を開催いたしました。

とあって、甲子園での試合途中で校歌が流れたシーンのテレビ録画を見ながら校歌を齊唱するなど、大きな盛り上がりを見せた。

A photograph of a man in a dark suit and tie standing behind a wooden podium, speaking into a microphone. He is positioned in front of a large banner with the text "花同窓会総会" (General Assembly of the Flower Friends Association) in black and pink characters. To his right, three women are seated at a table covered with a green cloth. A large arrangement of white flowers is visible on the left side of the frame.



松高三九会同窓会

谷岡修

ネットワークのすごさを再確認した
甲子園出場

中西
茂

松高16回生(S39卒)

私達の学年は卒業以来、二十八年間一度も集まらなかつた『ぐうたら』な学年でした。ところが、平成四年に第一回同窓会を開催すると、三五〇名中一五〇名の参加があり、一七八年振りの再会で会場は熱い雰囲気で、興奮状態の中での同窓会でした。以後四年に一度、第四回からはこの次は『無いかも』と言う仲間の切実な声もあり、毎年、夏季、冬季オリンピックの年に開催しており、出席者は八〇～一〇〇名で推移しています。



松高29回生(S52卒)

木高里町の旅館は北海道利尻島の、ソーランのオーナーで男の北の日本海に浮かぶ離島だ。当時の勤務地である札幌でさえ、甲子園からは千数百キロある。利尻島が一年限りの非常勤講師を務めていた札幌第一高校も出場するから応援に行こうと話していたが、さすがにそこまでの幸運はなく予定して試合開始時刻にはまだ、島の中で車を走らせていた。ところがちらり、たどり着いたラーメン屋は、北海道ミシユランでも紹介され、吉「北のカナリアたち」の出演者も通った有名店である。混雑する店内でついている五十男の姿は奇妙に映つたことだろう。渠は、この店を召びつけてくれたのが、公爵の司政主ごっこだ。二主人

はせいか二二百キロほ
て、両校対戦となつた
いた旅行を優先した。
ジオに気をもみなが
小百合さんら、映画
一人テレビにかじり

【樂しむ】”ということが非常に大事な要素で、幹事さん達が楽しんで企画しなければ同窓会は成功しないのでは無いかと思われます。初めて参加した同級生に「少し不安もあったけど、懐かしく、楽しかったから次回も来るよ」といわれるくらい幹事冥利に尽きることはなさそうです。

来年、ソチオリンピックの年に、第九回の松高三九会同窓会は開催されます。第十回の古希同窓会はリオデジャネイロ五輪の年です。

楽しんで骨を折ってくれる幹事さん達がいる限り、三九会同窓会は今後も続いて行くでしょう。



生徒会誌「青雲」が続いていると聞いた。第一号の編集長(会特委員長)として、名前を付けた張本人が私である。翌年には、前編集長の権限行使して小説まで載せてしまった。今も物書きの端くれを続けていられるのは、恥ずかしくもあり、誇らしくもある。

第一号の表紙に「三無主義をぶつとばせ」という威勢のいいひとことがある。歳月を感じるが、この言葉は、当時の高校生が大いに悩んでいたことの裏返しである。読み返すとそれがよくわかる。

後輩にも、しっかり悩んで、一人でも多くが「青雲」の志を成就してもらいたい。今なら、そのお役に、少しは立てるのではないかと思っている。

(讀賣新聞記者、東京都在住)

今なお三二〇〇名近い参加者のある本部総会は存続を望む声が多く、簡単に閉会する事もできない状況です。

とにかく、第四十一回の総会は来年春に開催することで準備を進めています。多くの同窓の方々にお集まりいただき、再会の喜びとにぎやかな笑顔のあふれる一日をお過ごしいただきたいものと考えております。

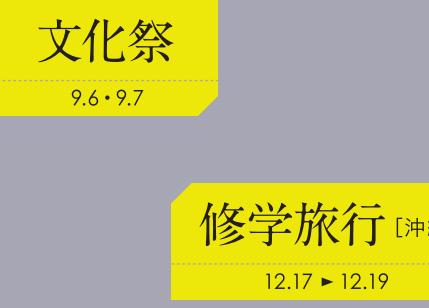
たところです
参加者お一人おひとりに傷害保
険をかけ、会場内の廊下やエレベーター、各部屋毎に係の人在配置して
いただき安全第一を心がけて居りますが、一番若い学生が七十八才になり本部の活動も閉じる事を考え

林校の便りは「か」たこともあり泣きれば涙眼を弄れよ」ということで第一回同窓会が同年一月二十九日に大阪市内のホテルで開催したがその前日に惜しくも落選の発表があり、残念会となってしまった。

しかし、くじけることなく翌年も開催しようということは決まり、翌二十四年一月二十八日には第一回を同じく大阪市内のホテルで開催。吉川さんを会長に年一回、母校が甲子園に出場を果たすまでは同窓会を続けようといふことも確認した。

母校は予想外に早く甲子園出場を果たした。もちろん関西同窓会メンバーの喜びようは大変なもので、八月五日には臨時の「甲子園出場を祝う会」を甲子園球場近くのホテルで開催。三重県大会の決勝戦のテレビ録画を見ながら感激に浸った。本番の十五日





スポーツ大会
7.12・7.13

生徒会報告

平成24年度生徒会活動を振り返つて

一学期の大仕事である体育祭が終わり、次はスポーツ大会と松高祭の準備。夏休み明けまでに大きな行事が三つも続いため、この時期の生徒会は毎日大忙しです。その時……。

突然、もう一本の大きな流れがやってきました。甲子園です。前大会の結果からもしやという思いはあったものの、物理的にも精神的にも全く準備はできておらず、突然現れた大渦に一気に飲み込まれました。

土行会はいつ? 舞台配置と脚本は? 心労団の結成や練習、バス部

隊の編制、生徒や保護者へ連絡、応援グッズの手配、旅行社との打
ち合わせ、それから、それから・・。
わからないこともわからないままに、時間
に追われながらとにかく前進です。
もちろんこれは生徒会だけのことではあり
ませんでした。応援指導やバトン、吹奏楽な
ど応援の要となるクラブをはじめ、生徒や保
護者・職員・南窓会から地域の人々に至るまで、
松高野球部の「夢」を応援しようという志を持
つ人全てが、手に手を取って、この流れに飛
び込んだのです。

熱い流れは甲子園という大海に向かって、
どどどうと流れていきました。あっちに渦巻き、こっちに激突しな
がら、流れて、流れきつて、そして太平にたどりつきました。出し切つ
て、皆、ただぶかぶかと浮いているような光景。かいた汗に文句を
つけたり、無粋に勝ち負けを言う人などいるはずもなく、ただ一〇





病れ力

この原稿を書いている今は二月で、生徒会では「青雲」の編集作業をしているところです。ほんの数ページですが、生徒の手作りによる甲子園特集を、これでも組んでいます。いろいろなところでいろいろな甲子園特集を見かけますが、そのすべてにそれぞれの想いが感じられます。生徒会は様々な行事で野球部に助けてもらっていますが、感謝の気持ちを少しでも伝えられたら幸いです。

寄付金の御礼名簿

今回の御礼名簿は100周年の御礼号に同封された振込用紙にてご寄付をいただいた方のお名前のみを掲載しております。甲子園出場に際しての寄付金のお名前は掲載しておりません。

平成25(2013)年入試 合格者・人数一覧

年度の進路実績は下記の表の通りです。京都大学・一橋大学を始めとする国公立大学への合格者は114名(現役109名)でした。昨今の経済事情を反映して、医療系など資格が取れる学部や理系の人気が高く、全体的に自宅から通える大学を希望する傾向が強い入試傾向でした。医学部医学科は三重大に2名合格をしています。今後とも、輩たちの進路実現のためのご支援をより一層賜りますことをお願い申し上げます。

